



# 2024年12月期 第2四半期 業績説明資料

2024/08/09

**アース製薬株式会社**

8月9日15時に当社第2四半期決算を開示いたしました。  
既にご覧いただいているとおり、第2四半期時点では計画に対して特に利益が上振れています。

本日はこの内容をメインに説明いたします。よろしくお願いいたします。



# 2024年12月期 第2四半期業績概要

---

# 業績ハイライト



(単位：億円)

- 増収増益
- 売上の計画上振れに加え、①原価率及び②販管費の計画下振れにより、利益計画達成
- 販促費使用の進捗遅れ、廃棄関連費用の未消化、販管固定費の期ズレが発生しており、これらは下期に発生する見込み

	23.2Q実績		24.2Q計画		24.2Q実績		比較			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前期差	前期比	計画差	計画比
売上高	903.2	100.0%	947.0	100.0%	970.9	100.0%	67.6	107.5%	23.9	102.5%
売上原価	513.4	56.8%	546.4	① 57.7%	556.9	② 57.4%	43.4	108.5%	10.5	101.9%
売上総利益	389.8	43.2%	400.5	42.3%	413.9	42.6%	24.1	106.2%	13.4	103.4%
販管費	290.6	32.2%	321.5	34.0%	306.4	31.6%	15.8	105.4%	▲ 15.1	② 95.3%
営業利益	99.2	11.0%	79.0	8.3%	107.5	11.1%	8.3	108.4%	28.5	136.2%
経常利益	104.2	11.5%	82.0	8.7%	113.3	11.7%	9.1	108.8%	31.3	138.3%
親会社帰属中間純利益	70.4	7.8%	54.5	5.8%	76.4	7.9%	6.0	108.6%	21.9	140.3%

© Earth Corporation All Rights Reserved.

2

2Qの業績ハイライトです。

増収増益です。売上高は970.9億円、営業利益は107.5億円となり、前期比では+67.6億円の増収、営業利益は+8.3億円の増益となりました。また計画比では、売上は+23.9億円、営業利益は+28.5億円の計画上振れとなりました。

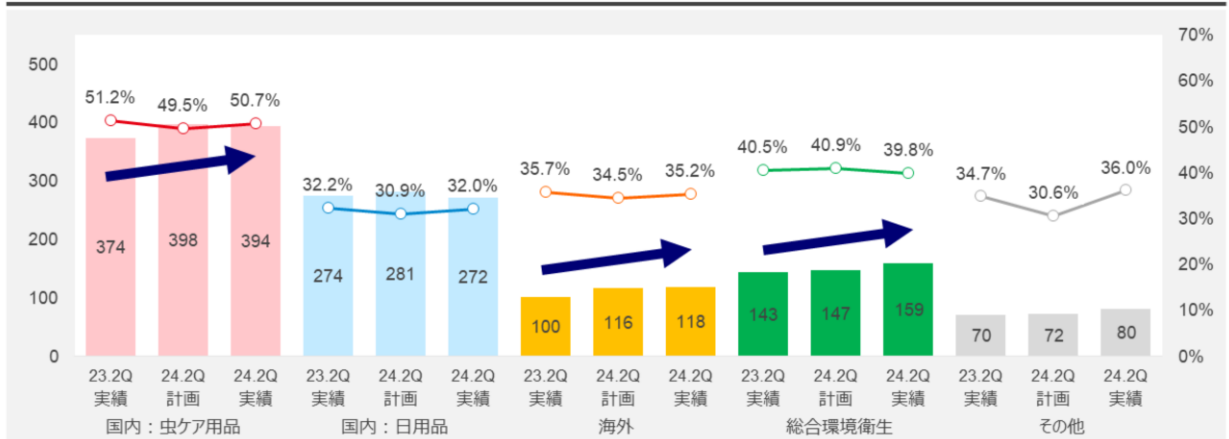
# 管理会計ベース 売上高・粗利率 (23vs24)



(単位：億円)

- 国内 虫ケア : 売上はほぼ計画どおり、利益率は想定を上回る推移
- 国内 日用品 : 入浴剤、口腔衛生用品が売上計画を下回る
- 海外 : ASEAN、中国とも順調
- 総合環境衛生 : 契約件数・金額の増加に伴い、好調な推移

ポートフォリオ別売上高・粗利率



© Earth Corporation All Rights Reserved.

\*当社管理会計ベース、内部相殺取引などの連結調整は含まない

管理会計ベースでの概観です。

国内虫ケア用品については、概ね計画どおりの増収となっています。対前年ではプラスをキープしています。

国内日用品については、1Qより変化はなく、入浴剤や洗口液が計画を下回る状況です。

海外については、ASEAN、中国とも2Q時点でも好調です。

また総合環境衛生についても、契約件数、金額ともに非常に好調に推移しており、安定成長を持続しています。

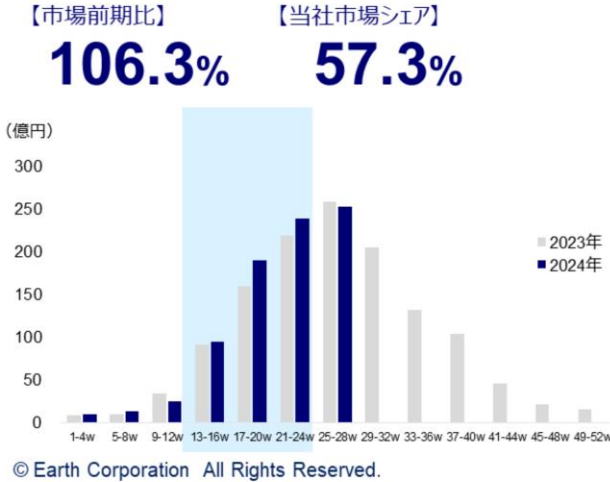
次以降、それぞれについてもう少し細かく説明いたします。

# 国内：虫ケア用品 事業の状況

- 天候にも恵まれ、4～6月の市場は前年を上回る好調な推移
- ゴキブリ用、不快害虫用、虫よけ用品が市場の伸びをけん引、一方でハエ・蚊用は前年割れ
- 価格改定品は順調な推移

6月末時点の市場状況、当社市場シェア

注力新製品の動向



アース ゴキツシュ  
**スツ、スゴい！**

【計画比】  
**136%**

価格改定品（計83SKU）の動向

【前期比】 **+9.7億円**      【計画比】 **+3.4億円**

国内虫ケア用品についてです。

6月末時点の市場は前期比106.3%で推移しています。なお、足元7月末時点でも好調を維持している状況です。市場シェアは57.3%と前期横ばいで推移しています。カテゴリ別では、ゴキブリ用、不快害虫用、虫よけ用品がマーケットの伸びをけん引しています。一方でハエ・蚊用については前年を下回る状況です。

価格改定品は非常に好調に推移しています。また、当社の新製品「ゴキツシュ」は計画比136%と想定を大きく上回る進捗となっています。高価格帯の商品としてお客様に受け入れられたものと考えています。

# 国内：日用品 事業の状況



- 競争環境の激化に伴い、入浴剤・洗口液の市場シェアが低下
- 下半期での反転攻勢に向けて、リカバー策を準備

## 入浴剤（6月末時点）

## 口腔衛生用品（6月末時点）

【市場前期比】

**102.0%**

【当社市場シェア】

**43.7%**

【市場前期比】

**101.8%**

【当社市場シェア（マウスウォッシュ）】

**18.1%**

### 基幹商品の動向

- ・ 温泡

計画比 **95%**



- ・ きき湯

計画比 **81%**



### 基幹商品の動向

- ・ モンダミン（レギュラー）

計画比 **96%**

- ・ プレミアムケア

計画比 **81%**



© Earth Corporation All Rights Reserved.

5

日用品の状況についてです。

日用品は、1Qに引き続き苦戦を強いられています。特に、主力の入浴剤、洗口液については、競争環境が激化していることもあり、市場シェアが低下しています。入浴剤の市場は102%、マウスウォッシュの市場は101.8%で、市場は安定しています。

下半期での反転攻勢に向けたリカバー策として、秋口の新製品、リニューアル品のローンチに加えて、マーケティング配分を強化し、マーケティング施策の追加実施を準備しています。



# 海外 事業の状況 (ASEAN)



(単位：億円)

## ASEAN中核エリア (タイ・ベトナム)

タイ

- 現地通貨ベースでは売上計画を若干下回るも、対前年では大幅伸長を実現
- 主要アカウント向けの伸びが顕著
- 新製品「ARS Mos Shooter」の導入が進む

ベトナム

- MT向けは上振れ、GT向けは若干の未達となり、トータルではほぼ計画通りの進捗
- 主力の住居用洗剤をはじめ、虫ケア用品、芳香剤など順調に売上を伸ばす

## ASEAN展開拡張エリア (マレーシア・フィリピン)

マレーシア

- 売上高は大幅上振れを達成
- 虫ケア用品、芳香剤とも順調
- 主要アカウントにおける定番採用の増加が寄与

フィリピン

- 売上計画は未達ながら、増収を達成
- 新製品の配荷は概ね好調に進む
- 拡売に向けたリスティングフィ及びアウト展開費用が増加



© Earth Corporation All Rights Reserved.

6

海外の状況です。4区分でご説明します。

ASEAN中核エリアのタイ、ベトナムはいずれも順調に成長しています。

タイについて、現地通貨ベースでは計画をわずかに下回るものの、対前年では大幅伸長を実現しています。特に主要小売業向けの伸びが顕著であり、オープントレードについてもシェア・配荷件数ともに拡大しております。花王様との協働により発売した「ARS Mos shooter」についても導入が進んでいます。

ベトナムについては、MT向けは計画に対して上振れ、GT向けは若干の未達、トータルでは計画どおりの進捗です。主力の住居用洗剤、虫ケア用品の伸長に加えて、新製品の衣類用洗剤も寄与しています。

続いてASEAN展開拡張エリアの状況です。

マレーシアは虫ケア用品、芳香剤とも順調に推移し、売上は計画に対して大幅に上振れました。フィリピンについては、計画未達ながら増収、新製品の配荷が順調に進んでいる状況です。

# 海外 事業の状況 (中国・輸出ビジネス)



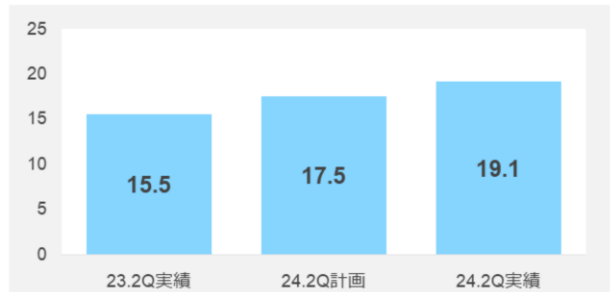
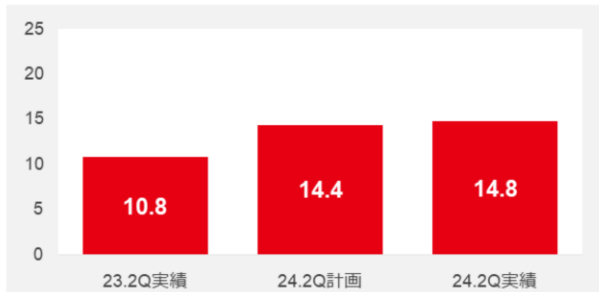
(単位：億円)

## 中国

- 現地**
  - オフライン向け・EC向けとも大幅増収を達成
  - 重点販売5品目の導入が進んでおり、下期にかけて店頭での消化促進により、返品抑制を実施
  - EC向けは計画を上回る順調な推移、下期も継続
- 越境**
  - 主力品は前年同等の推移
  - 越境ビジネスの深耕に向けて組織改編を実施  
新商品の選定及び開発に取り組む最中

## 輸出ビジネス

- 中東**
  - 虫ケア用品を展開
  - 前年からの好調を継続、新製品の売上寄与
- 香港**
  - 虫ケア用品、防虫剤・除湿剤をメインに展開
  - 前年の減収から復調し、2Q増収を達成
- 台湾**
  - 虫ケア用品をメインに展開
  - コバエ用、ゴキブリ用毒餌剤などブランド認知の進んだ商品をフックに売上拡大



© Earth Corporation All Rights Reserved.

7

中国については、1Qでもお示したとおり、オフライン強化に向けた戦略転換を図ったことが奏功し、大幅増収を持続しています。下期に向けては店頭での消化促進により、返品を抑制することが課題となります。

越境ビジネスについて、主力品は前年と同等の推移となっています。この4月に組織改編を行っており、ニーズに見合った製品の開発・選定に取り組んでいます。

輸出ビジネスについては、中東向け、香港、台湾がメインとなっており、いずれの地域においても順調に売上を拡大しています。



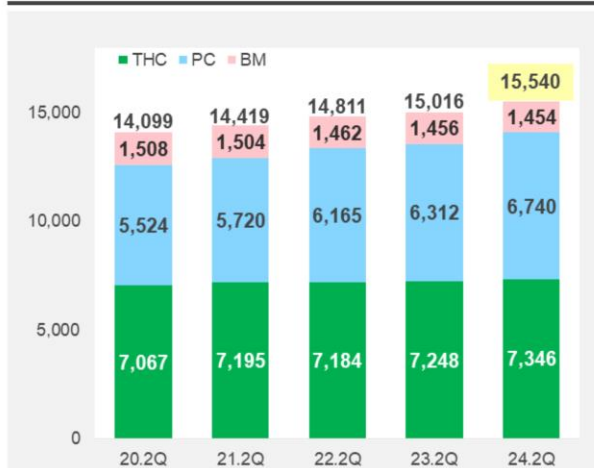
# 総合環境衛生 事業の状況



- 前期比+15億円（+10.7%）、計画比+12億円（+8.1%）の大幅増収
- 年間契約件数の着実な増加が業績をけん引

総合環境衛生 年間契約件数推移

実績好調な背景



- 外部要因**
  - コロナ禍で抑制されていた企業の設備投資、衛生関連コストの復調
  - 異物混入事件による、顧客の衛生管理意識の高まり
- 内部要因**
  - 能力開発センターによる社員向け教育の充実 → マネジメント基礎能力の向上
  - 組織再編により、専門性を持った組織としたことによる成果

© Earth Corporation All Rights Reserved.

総合環境衛生事業の状況です。

総合環境衛生事業は、堅実な成長を実現しています。対前年で15億円、対計画で12億円と大幅な増収となっています。

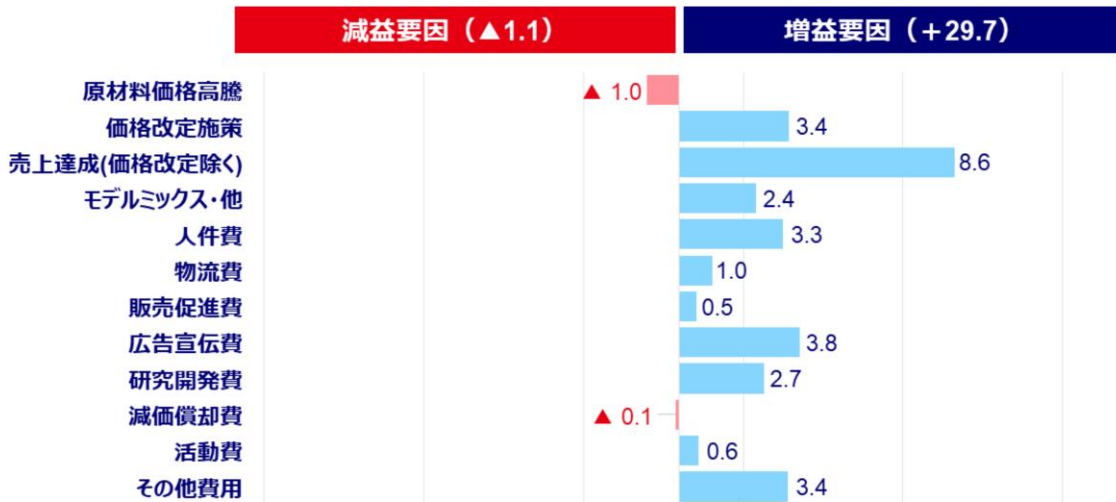
主に年間契約件数の増加が業績をけん引しているのですが、その背景として、外部要因は、コロナ禍で抑制されていた企業の設備投資や衛生関連へのコストのかけ方が活発になってきたことに加え、異物混入事件などをきっかけに顧客の衛生管理意識が高まっていることが挙げられます。また内的な要因としては、従業員教育・研修の充実と、専門性を持った組織への再編による成果と考えています。

# 営業利益変動要因（計画比）



（単位：億円）

- 2Q時点において、原材料価格高騰の影響は価格改定施策効果により吸収
- 売上計画の達成に伴う粗利益の増加に加え、販管費の期ズレ・計画下振れにより大幅増益



© Earth Corporation All Rights Reserved.

9

さて、ここまで各ポートフォリオの売上状況について説明してまいりました。  
続いて、営業利益の変動要因についてご説明します。

原材料価格高騰の影響については、やや想定よりも大きな影響となっております。一方で、価格改定施策によりリカバーできている状況です。

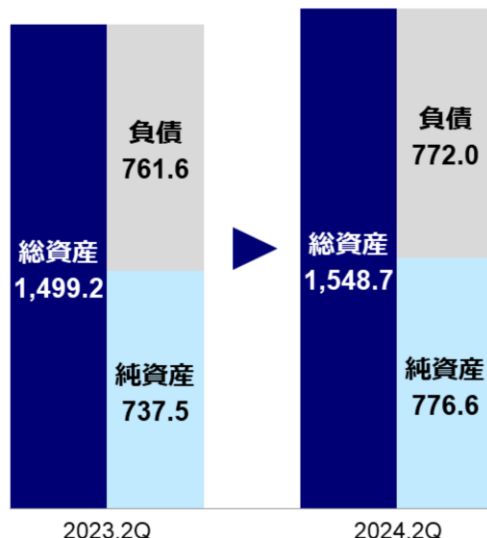
売上高の計画上振れやモデルミックスにより、粗利が改善したことに加え、経費計画に対して一部未消化のものがあるなどにより、大幅な増益となっております。

# 連結：財政状態

(単位：億円)

- ① たな卸資産 (▲43億円) : 前年下期以降の在庫圧縮による効果が発現
- ② 借入金 (▲37億円) : 在庫圧縮に伴うキャッシュ負担軽減に伴う

	2023.2Q	2024.2Q	増減
<b>総資産</b>	<b>1,499.2</b>	<b>1,548.7</b>	<b>+49.4</b>
現金及び預金	187.2	236.0	+48.7
売上債権	381.1	394.0	+12.8
たな卸資産	336.4	293.4	▲43.0 ①
有形固定資産	311.4	314.5	+3.0
無形固定資産	80.5	87.7	+7.1
投資その他の資産	176.0	195.1	+19.0
<b>負債</b>	<b>761.6</b>	<b>772.0</b>	<b>+10.3</b>
仕入債務	383.0	413.4	+30.3
借入金	107.2	70.0	▲37.2 ②
純資産	737.5	776.6	+39.0
自己資本比率	45.7%	46.6%	+0.9pt



© Earth Corporation All Rights Reserved.

10

こちらはB/Sの状況です。

ポイントとしては大きく2点あり、

1つ目は棚卸資産の減少です。こちらは昨年下期以降の在庫圧縮による効果が表れたことによるもので、前年同期対比で43億円の減少となっています。

2つ目は、借入金の減少です。在庫圧縮など運転資本が改善したことで、キャッシュ効率も改善したことが要因となっています。



## 通期業績見通し

---

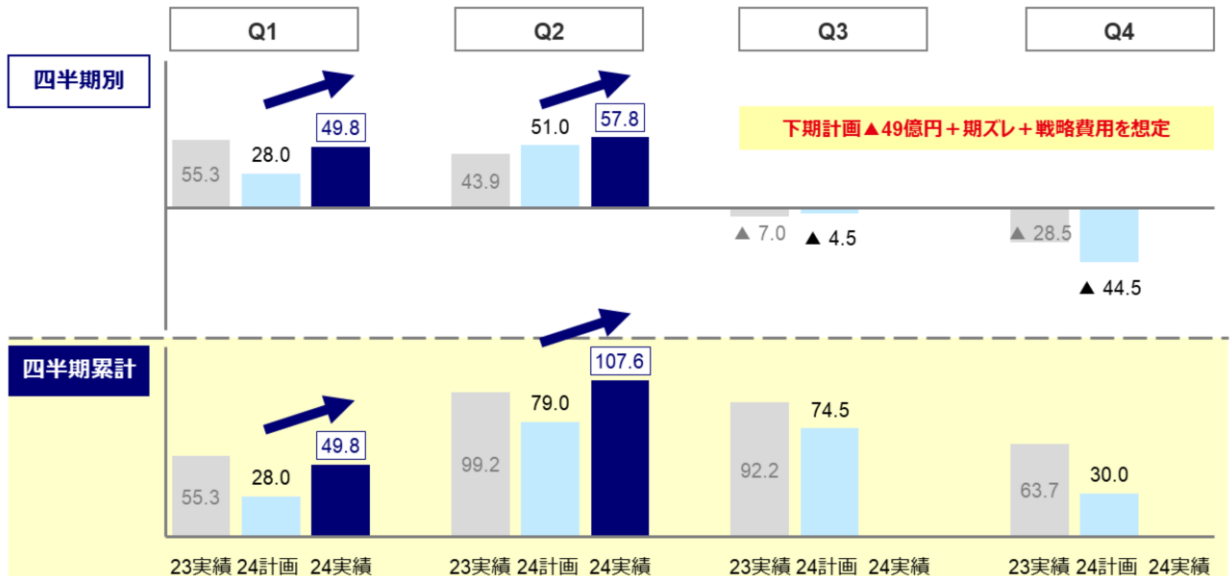
ここまで第2四半期の業績を説明いたしました。  
ここからは通期の業績見通しについて説明いたします。

# 営業利益の進捗（四半期別・累計）



(単位：億円)

- 下期も上振れに期待するものの、①天候リスク、②予算原価に対する上振れ、③上期未使用分経費の使用に加え、④販促・広告の戦略的投入を考慮



© Earth Corporation All Rights Reserved.

12

四半期の営業利益の進捗です。

Q1、Q2とも計画に対して利益が上振れており、下期についても上振れを期待しています。一方で、天候リスクや予算原価に対する原価の上振れリスクがあること、上期未使用分の経費の使用や、販促費・広告宣伝費の戦略的投入などを考慮しています。さらには、足元での為替動向の急変などもあり、少し先行きが見通しづらくなっていることもリスクと見ています。

# 2024年 業績見通し



(単位：億円)

- 期末業績の上振れを期待しつつ、現時点では2024年2月13日公表の数値から変更しない
- 業績見立てについてはリスクシナリオを含めて検討中であり、なるべく蓋然性を高めて開示する

	2024 計画	ポイント	2023 実績
売上高	1,650	・ 管理会計上の5区分すべてで増収を計画 ・ 国内虫ケア用品では、今期も価格改定を実施	1,583
売上総利益	658.3	・ 原材料価格高騰による原価影響額：11億円を想定 ・ 国内虫ケア用品、日用品の収益性に影響	636.2
販管費	628.3	・ 構造改革関連費用として15億円を今期分として計上見込み ・ 人財投資に+16億円、ブランド育成投資に+11億円を見込む	572.5
営業利益	30.0	・ 構造改革の推進に伴い、一時的な減益となる	63.7
親会社株主帰属 当期純利益	17.9	・ 営業外収支は前年並みを想定 ・ 特別利益／損失に大きなものは想定していない	41.0
ROE	2.7%	・ 収益性の一時的な低下によるもの	6.3%

© Earth Corporation All Rights Reserved.

13

こうした状況であり、今の段階での業績予想の修正は見送りました。勿論、今の状況を踏まえると、期末の業績に対する上振れ期待は持っております。

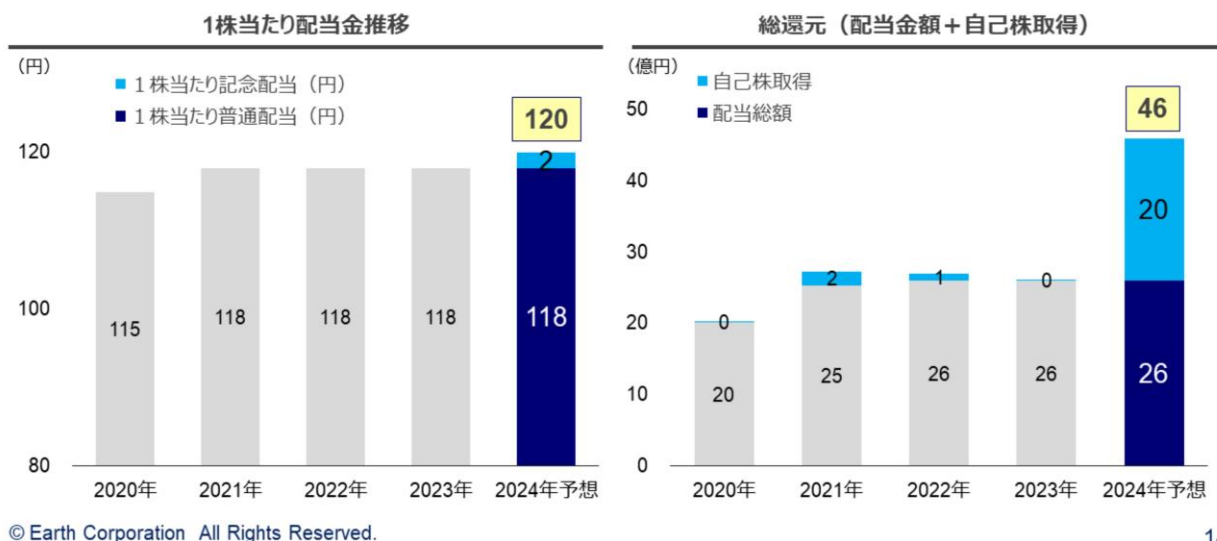
業績の見立てについては、先ほど申し上げたようなリスクシナリオを含めて現在検討中です。この辺りの蓋然性をなるべく高めた状態で、資本市場の皆さまとはしっかりとコミュニケーションを続けてまいります。



# 株主還元



- 還元方針：DOE4%を目安に安定配当を実施、増配・自己株取得については機動的に検討
- 2024年の1株当たり配当金は、2円の記念配当を実施することで120円を予定
- 自己株式の取得完了（20億円、41.7万株、発行済株式総数に占める割合：1.9%）



株主還元についてです。

還元方針については特に大きな変化はありません。

トピックとしては、先日公表しましたとおり、7月末日を持って20億円の自己株取得が完了しました。今期の配当予想と合わせて、今期は46億円の総還元を見込んでいます。

- ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Index」、「FTSE Blossom Sector Relative Index」の構成銘柄に初めて選定されました



## FTSE Blossom Japan Index



## FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

[ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Index」及び「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に初選定 \(earth.jp\)](https://earth.jp)

© Earth Corporation All Rights Reserved.

15

最後に、投資関連のトピックです。

先般、FTSEの投資指数の構成銘柄に初めて選定されました。ESG回りの活動については、重要な経営課題として捉えており、取り組みの成果が表れたものと考えています。ESG取り組みの目的は銘柄に採用されることではありませんが、励みになるものでもあります。今後も一層ESGに関する取り組みを強化してまいります。

地球を、キモチいい家に。



本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

以上で第2四半期の業績説明を終了します。